

2026年度

農業生物資源ジーンバンク事業シンポジウム

未来へつなぐ 栄養体遺伝資源

— 品種開発と地域産業を支える **サツマイモ** 遺伝資源 —

■ 開催趣旨

農業生物資源ジーンバンク事業では、食料・農業の将来を支える植物遺伝資源として、種子で長期保存できるものだけでなく、サツマイモ、ジャガイモ、イチゴ、果樹類等のように、栄養体を栽培して維持する作物も多く保存している。本シンポジウムでは、地域産業や消費の面からも関心が高まっているサツマイモを題材に、多様な遺伝資源を利用した品種開発、生産者や企業が展開する地域産業、さらに生産・流通・消費につながる経済活動を紹介するとともに、それらを支える研究基盤としての栄養体遺伝資源の保存と利活用について考える。特に、遺伝資源の安全で持続可能な保存に向けた生体保存や超低温保存等の技術開発から実装までを取り上げ、ゲノム情報や機能性成分等の情報付加による遺伝資源の価値向上と利活用促進、遺伝資源の確実な継承、研究・産業・地域との連携について発信する。サツマイモに関わる研究者、品種育成関係者、生産者、企業、消費者をはじめ、栄養体遺伝資源の保存と利用に関心を持つ多くの方々に現地で参加いただき、遺伝資源の価値を共有する機会としたい。

■ 開催日時

令和8年9月10日（木）午後：講演会 / パネルディスカッション
令和8年9月11日（金）午前：ジーンバンク施設見学（希望者）

■ 開催場所

講演会/パネルディスカッション：[文部科学省研究交流センター](#)（茨城県つくば市竹園2-20-5）

* 事前申込みされた方のみご参加いただけます（定員150名）

ジーンバンク施設見学：農研機構 遺伝資源研究センター（茨城県つくば市観音台2-1-2）

* ジーンバンク施設見学のみのご参加は受け付けておりません

■ プログラム

令和8年 9月10日（木）

11:00 開場・受付・ポスターブース公開

13:00～16:00 講演会

主催者挨拶：原田久富美（農研機構理事）

●金田富夫（JAなめがたしおさい）「焼き芋による地域産業の振興」（仮）

●田口和憲（農研機構）「サツマイモ遺伝資源を活用した新品種開発とジーンバンク事業」

●榎本 真（カネコ種苗）「サツマイモの育種と国内の遺伝資源について」

●田中大介（農研機構）「栄養体遺伝資源の超低温保存技術開発」

16:00～16:30 パネルディスカッション

閉会挨拶：柳澤貴司（農研機構）

令和8年 9月11日（金）

10:00～11:00 ジーンバンク施設見学

参加費 無料
施設見学
先着40名

[詳細・申込](#)



参加申込締切
9月4日



■ お問い合わせ先

農研機構・遺伝資源研究センター
資源保存グループ 田中大介
E-mail : tanaka.daisuke054@naro.go.jp
Tel : 029-838-7459

